

国際シンポジウム

# イスラーム世界を見る視線の交錯 ——日本とフランスの対話

Regards croisés sur le monde musulman  
: un dialogue entre la France et le Japon

【日時】

2019年10月16日（水）  
18:30~20:30

【場所】

東京大学駒場キャンパス数理科学研究科大講義室  
The main auditorium, Graduate School of Mathematical  
Sciences, The University of Tokyo at Komaba

【言語】

日仏同時通訳 Japanese and French

【登壇者】

アブデヌール・ビダール

Abdenour Bidar フランス国民教育省・哲学者・作家

中田考

NAKATA Ko 同志社大学客員フェロー

池内恵

IKEUCHI Satoshi 東京大学教授

【司会】

鵜飼哲

UKAI Satoshi 一橋大学特任教授

【企画・構成】

伊達聖伸

DATE Kiyonobu 東京大学准教授



東アジア藝文書院

2014年、「イスラーム国」が「建国」されたのを受けて、フランスのイスラーム哲学者アブデヌール・ビダール氏は「イスラーム世界への公開書簡」を発表した。

「イスラーム国」出現の原因はイスラーム世界にあると述べたこの文書は、大きな反響を呼んだ。

本シンポジウムは、イスラームの改革を訴えるビダール氏からの発題を出発点として、日本のイスラーム神学者である中田考氏と、政治思想・地域文化研究者である池内恵氏を交え、三者三様それぞれ違った視点から、イスラーム世界の来歴と現状と将来をどのように理解しているのかを提示し、対話を試みる。

**※事前登録制** Reservation required  
同時通訳機の台数に限りがございます。  
必ずご登録をお願いいたします。

下記 URL または QR コードよりご登録ください。  
<https://forms.gle/BSSmkt3glSF5Gn9c7>



【共催】

- ・ 科研費基盤研究 (B)  
「ヨーロッパの世俗的・宗教的アイデンティティの行方——政教関係の学際的比較研究」
- ・ 東京大学東アジア藝文書院 (EAA)